

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立松梅小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学力向上対策評価シートのマイプランの成果を意識した取組を促進した。今後は、授業での学習カルテの活用、学ぶ力をぐくむ授業づくりに小中で協働して取り組んでいくが必要である。 ・いじめの早期発見・早期対応体制や未然防止の取組を充実させることができた。 ・業務改善への職員の意識向上し時間外勤務時間の減少など一定の成果があった。さらに、業務の削減にも取り組んでいく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	①社会に開かれた教育課程の実現 ②学校運営協議会制度を生かした小中一貫教育の推進 ③安心・安全な学校づくり（集団に不適応を起こしている児童生徒への対応）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者		
(1)共通評価項目												
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○4、5、6年生は、12月の県学習状況調査で県平均以上。1、2、3年生はCRTテストで全国平均以上。	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修を通して、取組の推進を図る。 ・「授業づくりのステップ」等を活用したり、授業について教師間で情報交換をししたりしながら、授業改善に取り組む。	A	・校内研修を通して、共通理解を図ることで、全員が学力向上対策評価シートの共通事項や、マイプランの成果指標を意識して学習指導に取り組むことができた。今後も授業研究会等を通して、教師間で情報交換をし、研修を行ったりすることで、授業改善に取り組んでいきたい。	A	・全教職員が学力向上対策評価シートの共通事項を共通理解し、マイプランでそれぞれが具体的に設定した学習指導に取り組み、達成できた。回答した教職員が90%であった。 ・「授業づくりのステップ」等を活用したり、全員授業を行いそれぞれの取組について話し合ったりしたこと、目的をもって授業改善に努めることができた。	A	・マイプランの共有が成果につながった。 ・全職員による日々の取組の積み重ねによって、児童の学力も向上している。	学力向上		
	○主体的に学習に取り組む態度を向上させるために「期待する学びの姿」をめざした授業づくり ○思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動を充実させた授業づくり	○「めあてをもって、進んで学習に取り組むことができた」に肯定的な回答をする児童の割合が80パーセント以上。」 ○「自分の考えを表現することができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80パーセント以上。	・意欲を高める課題設定と見通しがもてる単元計画を設定する。 ・自分の考えを明確に表現する言語活動を計画的に取り入れる。 ・朝のスキルタイムでは、学習カルテや学習相談等を生かし、個に応じた学習課題に取り組ませる。 ・月に一度、家庭学習パワーアップ習慣を設け、児童がめあてや課題を決めて、自主的に取り組ませる。	A	・校内研究に於いて、授業研究や講師を招いての研修を行い、単元計画の設定の仕方や思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の在り方等の共通理解を図った。2学期以降も児童が主体的に学ぶ授業作りを授業研究会を中心に研鑽に努めたい。 ・スキルタイムでは、個人カルテや学習相談を生かし、個に応じためあてを立てることができた。また、児童が自分の目標に向けて取り組むための環境を整え、基礎基本の定着を行った。	A	・校内研究に於いて、一人一研究授業を行い、成果と課題を検証することで、授業力の向上を図ることができた。授業の中に言語活動を計画的に取り入れることで、児童の主体的な学びが深かった。90%の児童が「自分の考えを表現できた」と肯定的な回答であった。 ・スキルタイムでは、90%の児童が「基本的な力を身に付けるために役立っている」と肯定的な回答だった。 ・家庭学習パワーアップ週間では、ほとんどの児童が、めあてや課題を決めて、自主的に取り組むことができた。	A	・校内研究を通して、教職員の力量アップに努めており、そのことが児童の学習にも良い影響を与えている。 ・自分を表現できる児童の育成にむけて、これからも努力してほしい。	研究		
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の学習等で意見交流を通して様々な価値観をもたせることができた回答する職員を70%以上。 ○「友達の良いところを見つけたら、ほかほか言葉を使うことができた」児童を70%以上。	・道徳の学習で、葛藤場面を仕組み、道徳的価値に気づかせ、自己の意識を変えて日々の生活の中で行動できるように促す。 ・ほかほかの木や取組、平和集会や人権講話等を通して、命の大切さや公平、公正の大切さに気づかせる。	A	・道徳の学習で、様々な価値観をもつことができるよう友達との意見交流を仕組みだという質問に80%の職員が肯定的回答だった。 ・ほかほかの木や取組では、約90%の児童が友達の良さを見つけたら、感謝の言葉を書いたりすることができた。人権集会の感想では、友達の大切さに気づいたり、友だちを大切にしようと考えたりする児童が数多くいた。	A	・道徳の学習では、意見交流の場を設け自分とは異なる見方や考え方があること気づかせることができた。職員の88%がアンケートで肯定的回答であった。 ・人権集会や道徳の授業で、様々な意識した言葉づかいを意識させることができた。また、「ほかほかの木」の取組を通して、友達の良さに気づき、感謝の言葉を多くの友達にかけることができた。アンケートでは児童の95%が肯定的な回答。	A	・ほかほかの木や取組や道徳教育の充実によって、友達を大切にしようとする意識が高まっていて良い。 ・人を思いやれる児童に育ててほしい。	人権・同和教育 道徳		
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等に向けて、気になる子等に対して組織的にかかわることができたことと回答する教員の割合が80%以上。 ○Q-Uテストで学級生活不満度群の割合が全国平均以下	・毎月児童に「心のアンケート」を行い、気になる児童の把握、対応をする。 ・職員連絡会後に、気になる児童の情報交換を行い、共通理解を図る。 ・いじめに関する法的解釈や対応等にかかわる研修会や共通理解の場を年3回程度設ける。	A	・心のアンケートや教育相談週間、日々の観察等から把握した気になる児童について、職員連絡会や生徒指導協議会で職員全体の情報共有を図った。状況に応じて複数の職員で見守った。 ・いじめに関する研修等を行い、学校評価アンケートでは、いじめのない学級づくりの取り組みに全職員が肯定的な回答であった。	A	・気になる子等について共通理解する場を毎週の連絡会後に全体で共有する場を設けたことで、組織的に関わり児童理解に努めることができた。肯定的に回答した職員が100%であった。 ・心のアンケート等を定期的に実施し、その後の教育相談等において聞き取りを行い、管理職を含めて今後の対応を検討しながら、組織的なかわりを行うことができた。	A	・全体で共有したことでより具体的に有効な関わりができたと思う。・学校が楽しいと思う児童が多く安心。 ・アンケートや教育相談を効果的に活用していることが、いじめ防止や児童の心のケアにつながっている。 ・協調性のある児童を育ててほしい。 ・Q-Uテストの全体の結果も気になる。	生徒指導 教育相談		
	◎児童生徒が志をもつて夢をかなえるため、教育環境を整え、一人一人に活力を持たせる教育活動の充実	○「自分には良いところがある」という児童が80%以上。 ○「松梅のよさを知っている よさが分かった」という児童が80%以上。	・体験活動を通して、経験や達成感を積み重ね、自己肯定感や自己有用感を高める。また松梅のことを学んだ上、地域の方と関わりあうことで、ふるさととのよさに触れさせ、誇りや自信をもたせる。 ・「ゆめノート（キャリア・パスポート）」を活用し、夢や希望について考えさせ、目標を意識させながら学習や活動に取り組ませる。	A	・体験活動を通して、児童が目的をもって地域の方と関わり、松梅のよさに触れたことで、「松梅のよさを知っている」という質問に対して、肯定的な回答をする児童が100%であった。今後は児童がふるさと松梅に対して自信や誇りが持てるように引き続き取り組んでいく。 ・「ゆめノート」の活用について全教職員で共通理解し、「ゆめ週間」を設けたことで、児童に夢や目標について意識させることができた。「自分におもしろいところがある」「ゆめや目標について考えている」という質問に対して、約91%の児童が肯定的な回答をした。	A	・体育大会、文化祭発表、稲むら天宮、キッズマート、ふるさと学習等を通して、主体的に取り組む態度や臨土を大切に思う気持ちを育てることを目指す。また、「松梅のよさを知っている」という質問に対して、約98%の児童が肯定的な回答であった。 ・道徳や総合的な学習の時間を活用し、「ゆめ週間」を設けたことで、自分のゆめや目標を意識しながら、学習に取り組むことができた。「自分におもしろいところがある」「ゆめや目標について考えている」という質問に対して、約91%の児童が肯定的な回答をした。	A	・様々な活動を通して、児童が松梅の良さを知り、誇りをもつことができていてすばらしい。 ・松梅の良さを忘れずに、成長してほしい。 ・夢をもてる児童に育ててほしい。	キャリア教育 総合的な学習		
	●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはんをがんばることができた」児童が70%以上。	・家庭学習パワーアップ週間に合わせて、生活リズムについて記録をさせることで、自己の生活リズムを振り返らせる。 ・専門的な知識を持った職員と連携し、TT授業（健康、食育など）を行う。 ・お便り等を通して、睡眠や朝食の大切さについて保護者への啓発を図る。	A	・保健だより等を通して、睡眠や朝食の大切さについて、児童や保護者へ啓発を行った。 ・定期的に生活リズムを記録し、自己の生活リズムを振り返らせた。早寝早起き朝ごはんを頑張ることができた児童は約80%だった。 ・2学期以降、栄養教育等との授業を計画していく。	A	・学級で栄養教育や養護教育と連携した授業を行うことで、児童の食や健康への意識を高めることができた。 ・11月に実施した5年生対象の食事・健康に関する意識調査では、「ほぼ毎日3回食事をする」、「健康でいるために食事は大切」と答えた児童が100%であった。 ・学校評価アンケートでは、約90%の児童が「早起き朝ご飯を頑張っている」と回答した。	A	・専門職と職員が連携したことで相乗効果がみえて良い。 ・睡眠や朝食の大切さなどを知ることによって、児童の健康に対する意識も高まっている。 ・児童の成長に睡眠や栄養は大切 よりよい成長のために指導を頑張っている。	保健 体育	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「タイムマネジメントを意識して、業務改善に努めた」職員が80%以上。	・18:30以降の勤務を申告制にし、職員のタイムマネジメント力の向上させる。 ・定期的に業務効率化についてのアイデアを共有する機会を設け、職員の意識向上を図る。	A	・18:30以降の勤務の申告制を取り入れてからタイムマネジメント意識が特に向上してきた。7月のアンケートでは全職員が「時間外勤務時間の削減に取り組んだ」に肯定的な回答をしている。 ・8月には時間外勤務の削減のための工夫を全職員で情報共有する機会を設け、職員が今後の業務改善のヒントを得られるようにする。	A	・「時間外勤務時間の削減に取り組んだ」タイムマネジメントを重視して、業務改善に努めた」に肯定的に回答した割合が100%であった。 ・一時的に時間外勤務時間が増加した期間もあった。今後も業務改善意識の向上、行事や校務の見直しを進める。	A	・放課後も長時間気持ちは保持するのが大変。各職員がタイムマネジメント力を向上させ、自分を大切にしている。 ・自分の時間を多くし余裕のある指導に努めてほしい。	副校長		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目												
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○個に応じた教育の充実	○学習や生活におけるつまずきを把握し、個々に応じたかわりを行う。	○「学校が楽しい」「進んで学習に取り組んだ」と肯定的な回答をする児童の割合が、80%以上。	・「生活・学習実態把握表」をもとに、児童のつまずき等を把握する。 ・特別支援教育コーディネーター等と連携をし、個々に応じたかわりの検討、実施を行う。	A	・「学校が楽しい」「進んで学習に取り組んだ」について、ともに98%の児童が肯定的な回答をしている。「生活・学習実態把握表」のつまずきを重点に特別支援教育コーディネーターと連携して個々に応じた支援を続けていく。	A	・95%を超える児童が「学校が楽しい」「進んで学習に取り組んだ」と回答をしており、充実した学校生活が送れていることがうかがえる。各学級担任と連携をとりながら、配慮を要する児童の個々のつまずきに応じたかわりを継続的に行うことができた。	A	・一人一人を大切にしたい教育がなされていることで、児童が「学校が楽しい」と感じながら進んで学習に取り組むことができています。 ・個別に工夫された取組をしていて、一人一人が生き生きと活動できていると思う。	特別支援教育		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・校内研究で言語活動の充実をめざし一人一研究授業を取り組んだことで職員全体の授業力が向上した。また、全職員が学力向上対策評価シートの共通事項を共通理解し、マイプランで設定した学習指導に継続して取り組んできたことで、学力向上につながった。 ・気になる子やいじめへの対応では、共通理解の場を設けて担当や管理職を中心に組織的に対応することができ、早期発見・早期対応体制を築くことができた。 ・職員のタイムマネジメント意識が高まってきており、時間外業務の縮減を図ることができた。今後更なる働き方改革を進めるために、学校運営協議会で「基本的に学校以外が担うべき業務」について話題にししながら方向性を見いだしていく必要がある。 ・特別支援Cと各担任が連携し、配慮を要する児童の個々のつまずきに応じたかわりを継続的にを行い、児童の学校生活の安定につながった。
--------------------	---